



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

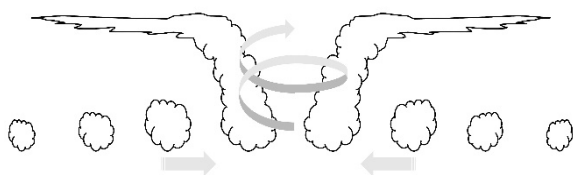
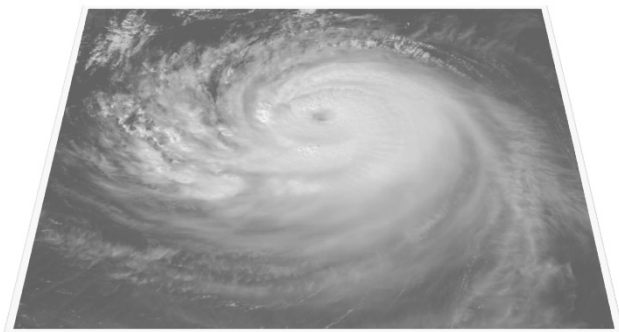
今月の素朴な疑問

台風を中心付近の風がとても強いのはなぜ？

積乱雲が活発に発生している中心に向かって、周りの空気が回転しながら吹き込むからです。

テレビなどで大きく報道されていますように、先日の台風第15号により関東地方で暴風が吹き荒れ亡くなった方もおられますし、電柱や鉄塔が倒れるなど、各地で大きな被害が出ました。また、今年の台風第21号では、暴風により大阪府などで何人もの方が亡くなられていますし、関西国際空港で船が吹き寄せられ陸地との連絡橋を破壊するなど大きな被害が出ています。このように台風を中心付近では災害をもたらすようなとても強い風が吹いています。このとても強い風はどうして吹くのか考えてみましょう。

フィリピンの東海上など熱帯域の海上では、暖かい海水からもたらされる水蒸気により積乱雲が活発に発生します。積乱雲の中では水蒸気が雲粒になる際、周りの空気を温めますので、積乱雲がたくさん発生しているところの空気は周りに比べると高い所まで暖かくなっています。温められた空気は軽くなるため地上の気圧は低くなります。すると周りの空気は気圧の低いところに向かって流れ込むようになり、その流れ



台風の衛星写真(上)と断面のイメージ(下)

は地球の自転の影響を受けて渦を巻く(北半球では反時計周りになります)ようになります。その結果、大きな雲の渦ができ上がり熱帯低気圧が発生します。熱帯低気圧のうちで風速が強いものが台風と呼ばれます。台風に向かう風の流れは大きな円を描くようにして中心に近づいていきますが、その流れの速さは中心へ近づくことで速くなっていきます。これはフィギュアスケートの選手がスピンするとき、最初は手を広げてゆっくりとした回転が、広げた手を狭めると速くなる原理と同じです。図のようなイメージをもつといいでしょう。

台風のとて強い風から身を守るためにはどうしたら良いでしょうか。とにかく、風が強い時は絶対に外に出ないことです。風にあおられて転んだり、高い所から吹き落されたり、看板や屋根瓦などが飛んできたりして、大けがや死んでしまうことがありますし、ドアを開けて外を確認しようとしてドアに挟まれて指を切断することもあります。また、台風の眼に入ると急に風が弱くなるがありますが、その後は反対方向からの風が急に強まります(これを「吹き返し」といいます)ので、一時的に風が弱くなったからといって油断して外に出ないようにしましょう。さらに停電が発生するおそれがありますのでラジオ、懐中電灯、手動発電機が一体となったものを普段から準備して停電に備えるといいかもしれません。

百年後を予想した昔の新聞に「台風を1か月前に予測でき、大砲で破壊できる!」というのがあったそうです。もちろん実現はしていませんが、現在は科学技術が進歩したおかげで台風の不意打ちを食らうことはないはずです。

台風がもたらす災害は強い風だけではありません。大雨での災害も起きますし、海の近くでは高潮による災害も起きます。また、台風が遠くにあるうちから浜辺に高波が打ち寄せます。台風の接近が予想される時には、气象台から台風情報が発表されますし、テレビなどでも台風への注意をよびかけます。「台風」ということばを聞いたら、天気予報などに気をつけ、最新の気象情報を利用して学校行事の予定を変更する、休校の判断をする、場合によっては避難するなど、早めに行動を起こすことが台風から身を守るコツになります。

ご意見をお待ちしています

お気づきの点があればご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便(はがき、封書)で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区气象台防災調査課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

Fax：092-725-3163

e-mail：fukuoka_bousaichousa●met.kishou.go.jp

●マークは半角@に置き換えてください

次回の発行は10月中旬頃の予定です。